

福山道路瀬戸第1改良工事

ウェアラブルカメラで臨場確認

山陽建設が現場に初導入

【福山】中国地方整備局福山河川国道事務所発注の「令和2年度福山道路瀬戸第1改良工事」(福山市瀬戸町)で、ウェアラブルカメラを活用した臨場確認が実施されている。

現場訪問

市瀬戸町)で、ウェアラブルカメラを活用した臨場確認が実施されている。カメラは、施工を担当する山陽建設(三原市宮沖、深山隆一社長)が新型コロナウイルス感染症対策の一環として、初めて現場に導入。発注者ともに「時間的リモート確認に要した時間は約20分。大本さんはい技術に対応していきた

る。カメラは、施工を担当する山陽建設(三原市宮沖、深山隆一社長)が新型コロナウイルス感染症対策の一環として、初めて現場に導入。発注者ともに「時間的リモート確認に要した時間は約20分。大本さんはい技術に対応していきた



臨場確認のようす



大本さん(右)と芳賀さん(左)

い」と話す。

カメラを通したりモート確認・指示を行ったは、周辺住民・環境への島田知和建設専門官は、「通信環境を整える課題もあるが、コロナ禍で対面に制限があるなか、現場に行く時間が省けられる。特に遠隔地の現場で導人できれば、かなり有効だと感じている」。

は「現地で行う従来の臨場確認では監理技術も可能」とメリットを挙げ、カメラの導入により現場代理人の芳賀雄斗さんは「現地で行う従来の臨場確認と比べ待ち時間がなく、渋滞による遅延もない。時間通りに立ち会うことができ、急な対応も可能」とメリットを挙げ、カメラの導入により現場代理人の芳賀雄斗さんは「現地で行う従来の臨場確認だけではなく「材料確認や空袋確認でも時間が省ける。浮いた時間で他の内業もはかどる」とニッコリ。「慣れれば楽

地盤改良や調整池の施工も並行して行う現場で生かした施工が進められ

工も並行して行う現場で

工事は昨年9月に着

工事概要是道路土工

トロール(チルトローテ

ータ+3Dマシンガイダ

ンス)(コベルコ建機も

函渠工2基(W8m×H

3・9m×L21・52mほ

か)、地盤改良工、現場打

面に制限があるなか、現場に行く時間が省けられる。特に遠隔地の現場で導人できれば、かなり有効だと感じている」。

現場に行く時間が省け

新たに導入。機体を走行

させることなく、掘削・

か1基)、調整池工。工

期は3月31日まで。契約

額は2億1406万円。